

広島市感染症週報

広島市感染症対策協議会・広島市感染症情報センター

■コメント

1 感染性胃腸炎

定点当たり12.83人の報告があり、前週と比べて減少しましたが、多い状況です。こまめな手洗い、便・吐物の適切な処理など、感染予防対策を徹底しましょう。

2 RSウイルス感染症

定点当たり0.96人の報告があり、例年同時期より多い状況が続いています。感染経路は、飛沫感染、接触感染です。おもちゃや手すりなど手の触れる部分の消毒や手洗いの励行、咳エチケットなど、感染予防対策を心がけましょう。

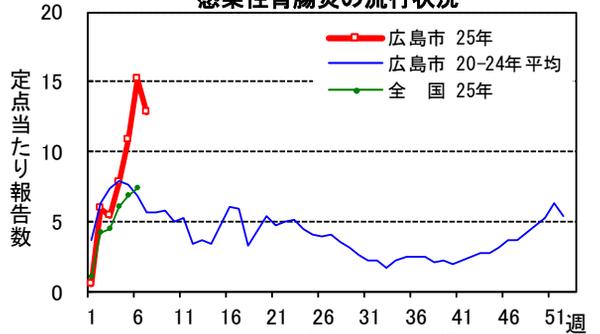
3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

定点当たり1.52人の報告がありました。感染経路は、飛沫感染、接触感染です。手洗い、咳エチケットなどの感染予防対策を心がけましょう。

4 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)

定点当たり2.44人の報告がありました。引き続き、基本的な感染予防対策を徹底しましょう。

感染性胃腸炎の流行状況



RSウイルス感染症の流行状況



■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年間(注)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年間(注)	発生記号
インフル	インフルエンザ	57	1.58	9.50	⇒	小児科	ヘルパンギーナ	1	0.04	0.02	
	新型コロナウイルス(COVID-19)	88	2.44		⇒		流行性耳下腺炎	1	0.04	-	
小児科	RSウイルス感染症	22	0.96	0.13	⇒	眼科	急性出血性結膜炎	1	0.13	0.03	
	咽頭結膜熱	5	0.22	0.46			流行性角結膜炎	7	0.88	0.43	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	35	1.52	1.26	⇒	基幹	細菌性髄膜炎	-	-	0.03	
	感染性胃腸炎	295	12.83	5.70	⇒		無菌性髄膜炎	-	-	-	
	水痘	-	-	0.09			マイコプラズマ肺炎	4	0.67	0.06	
	手足口病	-	-	0.22			クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
	伝染性紅斑	1	0.04	0.10			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1	0.17	0.03	
	突発性発しん	4	0.17	0.20							

急増減	↑	↓	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減
微増減	↔	↔	前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減
横ばい	→		ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ/COVID-19定点数(小児科定点を含む)	36
小児科定点数	23
眼科定点数	8
基幹定点数	6

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	1	11	10歳未満
5	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	2	4	50歳代、80歳代
5	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	6	70歳代
5	梅毒	2	16	20歳代、50歳代
5	百日咳	1	18	10歳代

■ 定点把握感染症報告状況(週報対象)の推移

報告数	広島市	週	インフルエンザ	(COVID-19)	新型コロナウイルス感染症	RSウイルス	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	(ロタウイルス)	感染性胃腸炎	
			第3週	512	87	3	2	22	124	1	4	1	4	-	1	-	8	-	-	13	-	-	-	-
第4週	264	114	19	9	40	180	8	1	4	2	-	1	-	1	5	-	-	11	-	-	-	-	-	
第5週	149	104	24	5	44	250	7	1	4	2	-	-	-	-	11	-	-	5	-	-	1	-	-	
第6週	62	96	22	8	31	348	3	-	5	2	-	1	1	13	-	-	-	4	-	-	-	-	-	
第7週	57	88	22	5	35	295	-	-	1	4	1	1	1	7	-	-	-	4	-	-	-	-	-	
定点当たり	広島市	第3週	14.22	2.42	0.13	0.09	0.96	5.39	0.04	0.17	0.04	0.17	-	0.04	-	1.00	-	-	2.17	-	-	-	-	-
		第4週	7.33	3.17	0.83	0.39	1.74	7.83	0.35	0.04	0.17	0.09	-	0.04	0.13	0.63	-	-	1.83	-	-	-	-	-
全国	第5週	第5週	4.14	2.89	1.04	0.22	1.91	10.87	0.30	0.04	0.17	0.09	-	-	1.38	-	-	0.83	-	-	0.17	-	-	-
		第6週	1.72	2.67	0.96	0.35	1.35	15.13	0.13	-	0.22	0.09	-	0.04	0.13	1.63	-	-	0.67	-	-	0.17	-	-
全国	第7週	第7週	1.58	2.44	0.96	0.22	1.52	12.83	-	-	0.04	0.17	0.04	0.04	0.13	0.88	-	-	0.67	-	-	0.17	-	-
		第5週	5.87	6.07	0.86	0.29	2.50	6.86	0.19	0.10	0.91	0.20	0.01	0.03	0.05	0.72	0.02	0.01	0.62	-	-	0.06	-	-
全国	第6週	第6週	3.78	5.82	0.96	0.32	2.48	7.39	0.29	0.08	0.67	0.20	0.01	0.03	0.05	0.80	0.02	0.02	0.47	-	-	0.06	-	-

■ 新たに判明した病原体検出状況

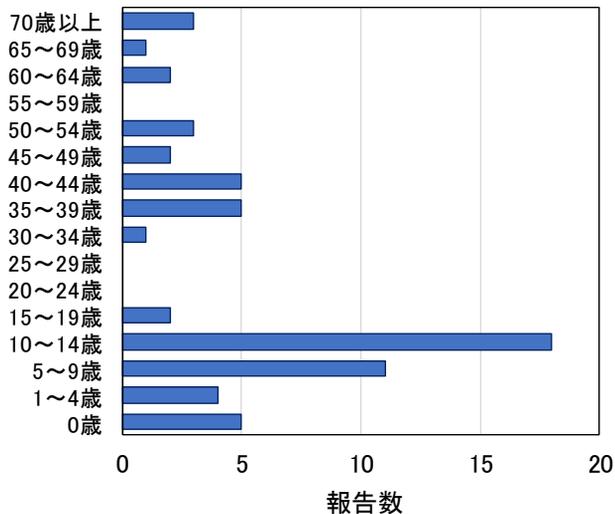
(検査: 広島市衛生研究所)

診断名	主症状	年齢	発症年月日	検査材料	検出病原体
伝染性紅斑	発熱(39.0°C) 紅斑	7	2024/12/08	咽頭拭い液	ハルボウイルスB19
その他の呼吸器疾患	発熱(39.0°C) 肺炎 血圧低下 敗血症 鼻炎	0	2024/12/20	咽頭拭い液	ライノウイルス

* 感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載

【参考】百日咳について

百日咳の年齢階層別報告数(広島市)
2024~2025年累計(第7週現在)



百日咳は、百日咳菌によって起こる急性の気道感染症で、感染経路は飛沫感染と接触感染です。患者は小児が中心ですが、いずれの年齢でもかかります。

7~10日程度の潜伏期間を経て、かぜ様症状で始まり、次第に咳の回数が増えて程度も激しくなります。短い咳が連続的に起こり、息を吸う時に笛のような音が出る発作性の咳となり、しばしば嘔吐を伴います。

成人の場合は、咳が長期にわたって持続しますが、典型的な症状を示すことが少なく百日咳とわかりにくいいため、周囲に感染を広げてしまうことがあり、注意が必要です。

肺炎や脳症などを合併することもあり、1歳以下の乳児、特に生後6か月未満の乳児は重症化のリスクが高く、注意が必要です。予防にはワクチン接種が有効です。定期接種対象者は早めに接種を受けましょう。

【参考】

百日咳とは(国立感染症研究所)

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/477-pertussis.html>



本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。なお、感染症情報の詳細についてはホームページでご覧いただけます。

<https://www.city.hiroshima.lg.jp/site/infectious-disease/>



【問い合わせ先】

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号
TEL(082)277-6575 FAX(082)277-5666 E-Mail ei-seikatsu@city.hiroshima.lg.jp